



## 春の叙勲・褒章

おめでとうございます

令和6年春の叙勲・褒章において受章された、本市関係の皆さまをご紹介します。(順不同)

### 瑞宝単光章 (防衛功労)



#### 三ツ木宏文氏

昭和56年に陸上自衛隊に入隊後、施設科で、建設機械オペレーターとして訓練や部外工事、硫黄島遺骨収集支援、災害派遣などでご活躍されました。

### 旭日双光章 (地方自治功労)



#### 高橋芳市氏

平成7年に国分寺町議会議員となり、下野市発足後においても令和4年まで市議会議員として地方自治の発展に寄与されました。

### 藍綬褒章 (更生保護功績)



#### 塚原良子氏

平成10年から現在まで、保護司として過ちに陥った人たちの更生にご尽力。また、保護司会の薬物防止指導員としてもご活躍されました。

## 駐日ドイツ連邦共和国クレメンス・フォン・ゲッツェ大使が下野市を訪問

ディーツヘルツタールと下野市の交流 これからも大切に

4月23日、駐日ドイツ連邦共和国クレメンス・フォン・ゲッツェ大使と、ドイツ大使館のグロートフーゼン文化課長、通訳のヴィンシャーマン氏が下野市を訪れました。

大使らは、市役所で市長らと懇談した後、道の駅しもつけで昼食をとり、売り場を視察しました。自治医科大学附属病院ではドイツ製のMRIや特別支援学校を視察したほか、自治医科大学のへき地医療に関する仕組みに関心を寄せていました。グリムの館での講演会の後は、風土記の丘資料館で機織型埴輪などの展示を視察し、花まつり期間中の天平の丘公園で八重桜を楽しんだ後、下野市を後にしました。

初めて下野市を訪れた感想として、大使は「下野市の3つの良さを感じた。1つ目は姉妹都市との友好的な関係。石

橋駅前のからくり時計やグリムの館などドイツを感じられる場所がある。2つ目は歴史が大切にされていること。しもつけ風土記の丘資料館や薬師寺などの施設が素晴らしい。3つ目は自治医科大学附属病院を視察して、とても近代的だと感じた。3つの良さが合わさっていることが下野市の魅力であると思う」と述べました。



自治医科大学附属病院を視察



道の駅しもつけで特産品をご紹介します



風土記の丘資料館で解説を熱心に聴く大使